



## 気象経過と生育概況

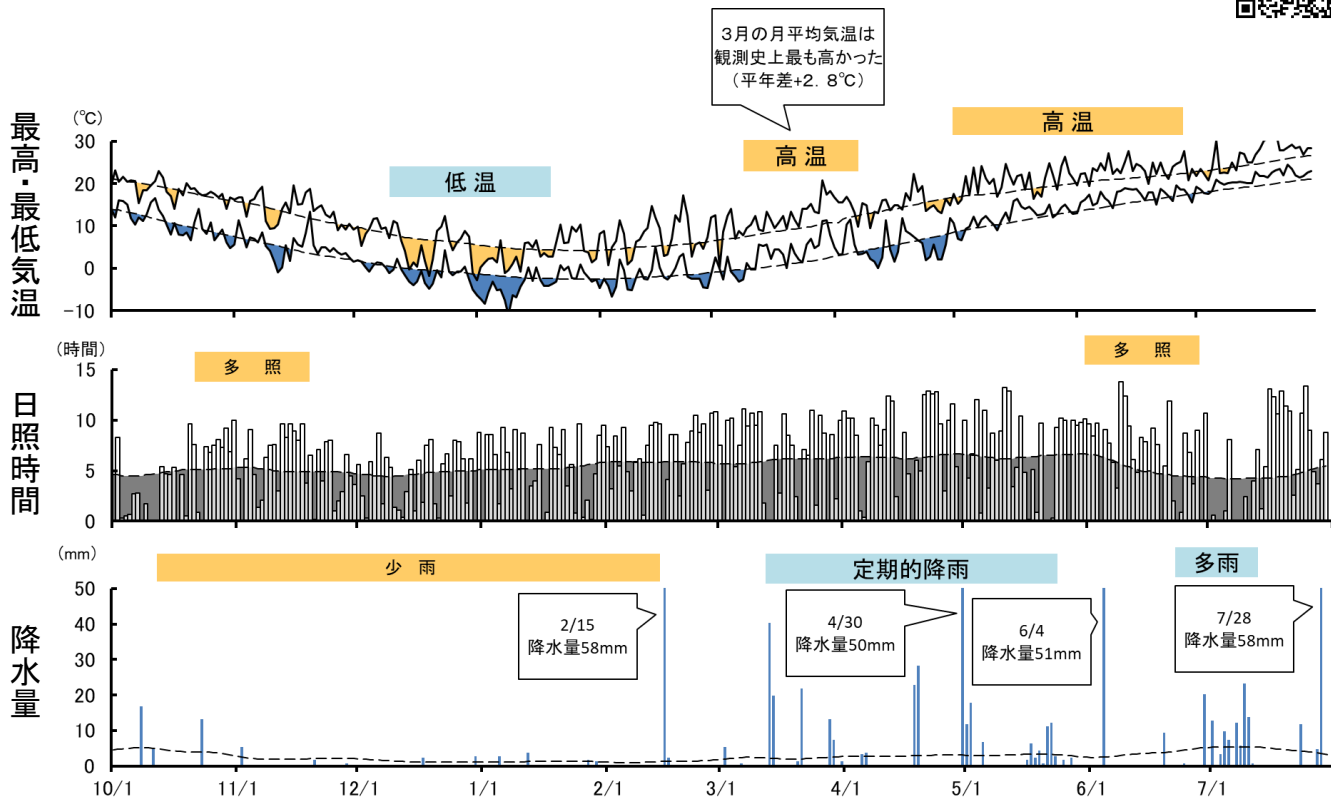


図1 麦類生育期間の気象経過(アメダス石巻)

※ 実線：R2～R3年，破線：平年値

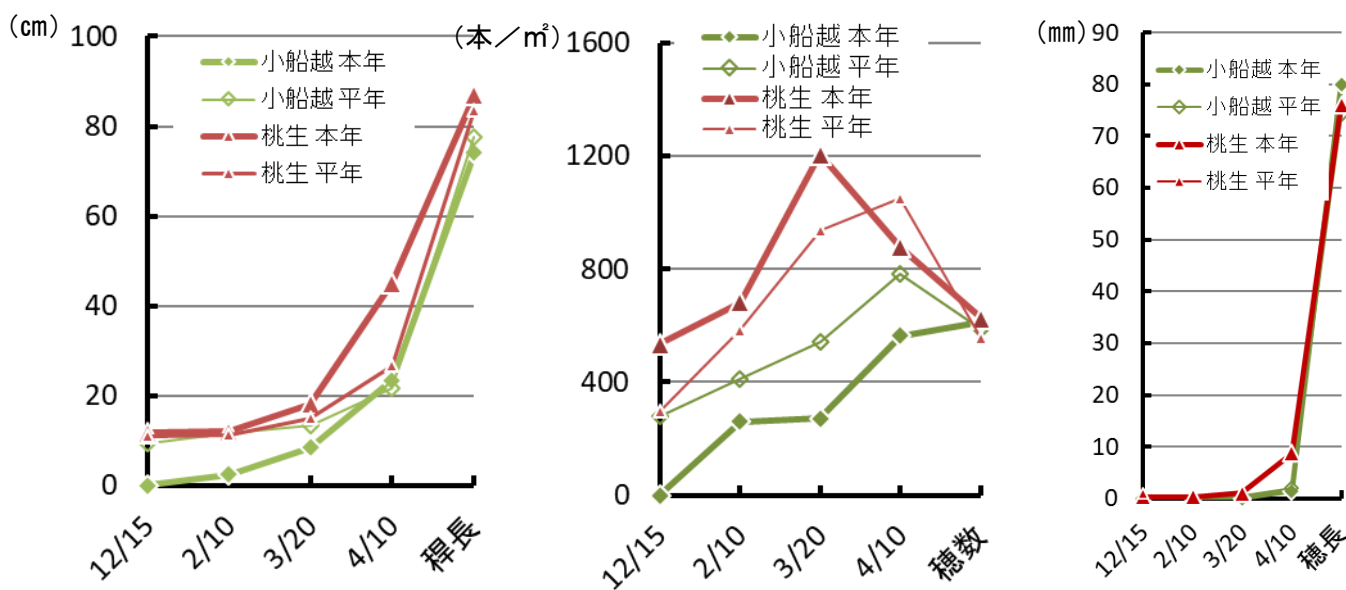


図2 シラネコムギ生育調査ほの草丈(左), 茎数(中)及び幼穂長(右)の推移

※ 小船越本年播種日: 11/29(平年差+28日), 桃生本年播種日: 11/20播種(平年差-13日)

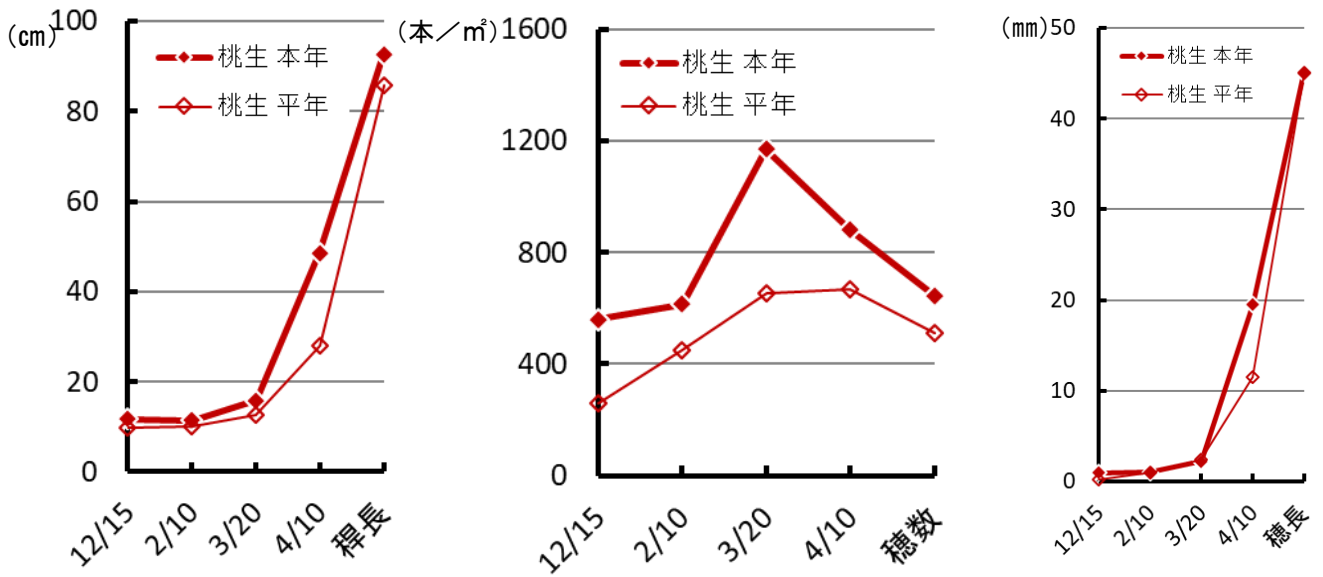


図3 シュンライ生育調査ほの草丈(左), 茎数(中)及び幼穂長(右)の推移  
 ※ 桃生本年の播種日: 10/16(平年差-7日)

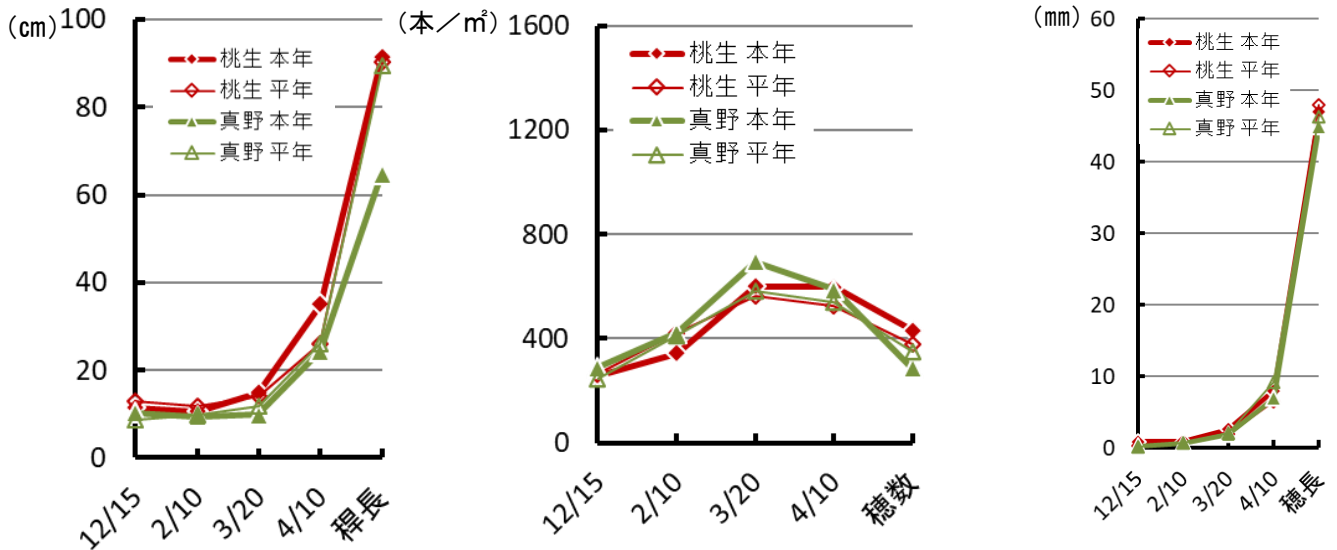


図4 ミノリギ生育調査ほの草丈(左), 茎数(中)及び幼穂長(右)の推移  
 ※桃生本年播種日: 10/20(平年差-4日), 真野本年播種日: 10/29(平年差+2日)

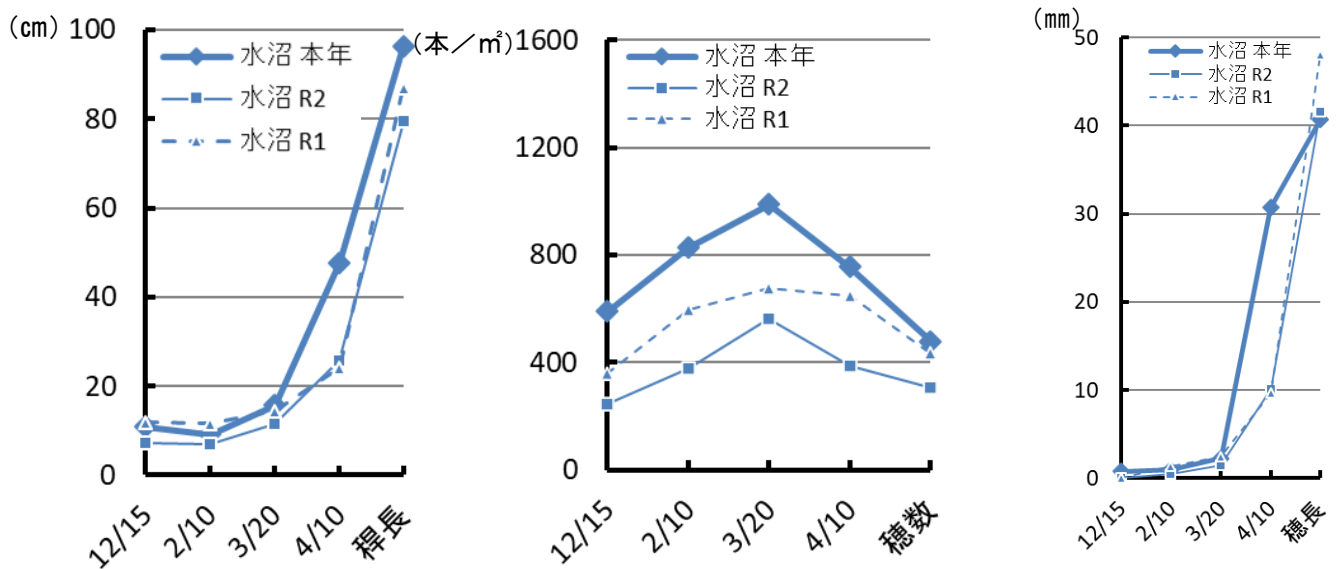


図5 ホワイトファイバー生育調査ほの草丈(左), 茎数(中)及び幼穂長(右)の推移  
 ※水沼本年播種日: 10/20, 水沼R2播種日: 11/8, 水沼R1播種日: 10/20

## 播種期 ～ 越冬前（10月～12月）

○ 10月下旬～11月上旬は日照時間が多く、12月中旬は低温だった

◆管内全体では、11月上旬までに播種作業を完了したところが多くみられました(図6)。生育調査ほにおける越冬前生育量をみると、適期播種された調査ほでは、平年並～平年より多くなりましたが、10月末の播種となった真野ミノリムギについては平年より少なくなりました。また、小船越シラネコムギについては、播種時期が11月末となったことから、出芽揃いは2月中旬以降となりました。

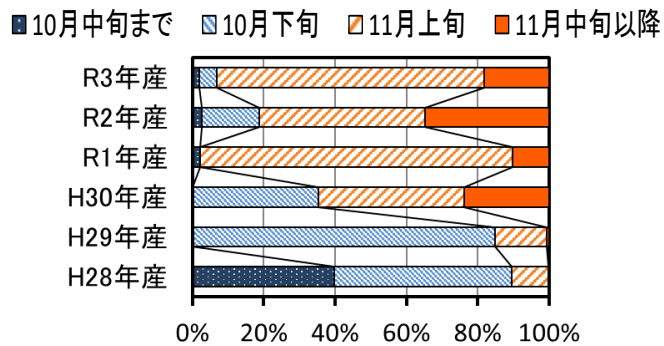


図6 石巻管内の麦類の時期別播種面積割合  
※ 宮城県みやぎ米推進課調べ

## 冬期間（1月～2月）

○ 1月上旬は強い低温、2月は高温傾向

◆ 12月中旬と1月上旬の低温の影響を受けたほ場では茎数増加が緩慢となりました。桃生ミノリムギの2月10日現在の茎数は平年を下回りました(図4)。

## 越冬後～成熟期（3月～6月）

○ 3月の月平均気温は観測史上最も高く(平年差+2.8℃)、4月以降も高温傾向

- ◆ 2月からの高温の影響で、茎数の増加幅が平年より大きくなりました(図2～5)。
- ◆ 播種日が平年より遅かったほ場においても出穂期は平年並～早くなりました(表1)。

表1 生育調査ほの生育ステージ

品種	調査ほ	播種日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	成熟期	
シュンライ	桃生	本年	10月16日	3月12日	4月13日	4月23日	6月6日
		前年差	-17日	-12日	-7日	-9日	-1日
		平年差	-7日	-1日	-6日	-5日	±0日
ミノリムギ	桃生	本年	10月20日	3月10日	4月22日	4月28日	6月10日
		前年差	-12日	-18日	±0日	-8日	-2日
		平年差	-4日	-11日	-1日	-6日	-4日
ミノリムギ	真野	本年	10月29日	3月20日	4月22日	4月30日	6月8日
		前年差	-19日	-10日	±0日	-5日	-2日
		平年差	+2日	+4日	+1日	±0日	±0日
ホワイトファイバー	水沼	本年	10月20日	3月12日	4月10日	4月23日	6月4日
		R2年差	-19日	-10日	-9日	-6日	±0日
		R1年差	±0日	-2日	-9日	-4日	+1日
シラネコムギ	小船越	本年	11月29日	4月8日	5月3日	5月10日	6月25日
		前年差	+20日	-3日	+3日	-1日	±0日
		平年差	+28日	-4日	+1日	-2日	±0日
	桃生	本年	10月20日	3月23日	4月21日	5月2日	6月23日
		前年差	-13日	-10日	-6日	-7日	+1日
平年差	-8日	-17日	-10日	-8日	±0日		

※ +は前年(平年)よりも遅いことを表し、-は前年(平年)よりも早いことを表す

※ 平年差：H28～R2の5か年平均(平年値)との差。

※ 水沼(ホワイトファイバー)は調査3年目のため平年値なし

# 収量及び品質

◆生育調査ほの収量は、桃生シュンライを除き、平年を下回りました(表2)。その要因としては、3月以降の高温により、ほとんどの調査ほ場において十分な穂数が確保されていましたが、遅れ穂の発生が多かったこと等により未熟粒が多く、子実粒(大麦2.3mm以上、小麦2.4mm以上)が少なかったことから収量が低下したものと考えられます。また、農産物検査における上位等級(1等・2等)の割合は、ホワイトファイバーを除き、前年を下回りました(図7)。

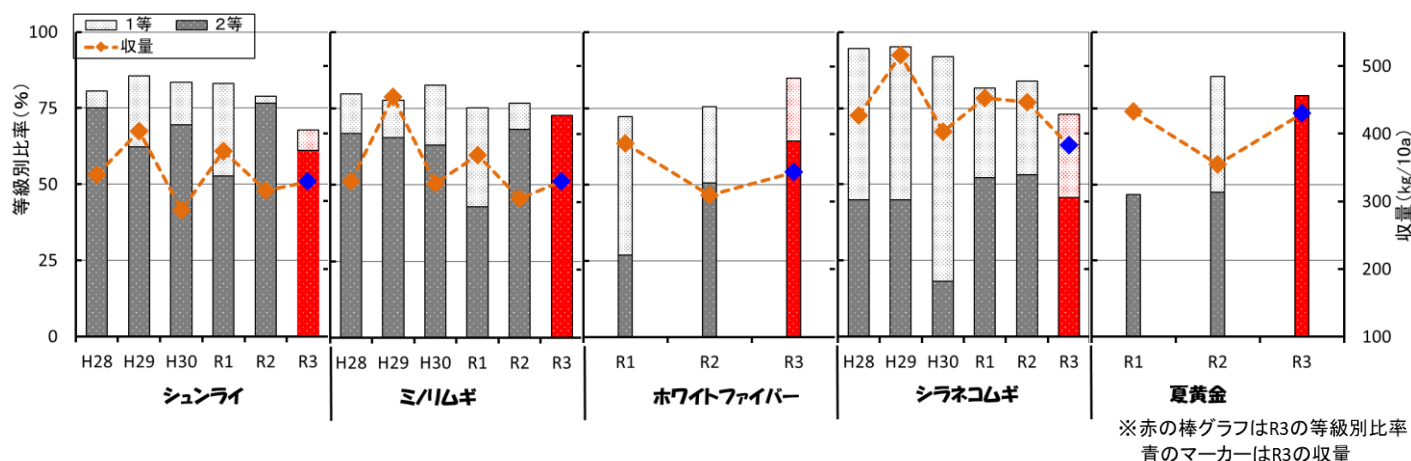
表2 生育調査ほの成熟期調査及び収量調査結果

品種(調査ほ)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	子実粒数		千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m <sup>2</sup> )	全重 (g/m <sup>2</sup> )	わら重 (g/m <sup>2</sup> )
					(粒/穂)	(千粒/m <sup>2</sup> )					
シュンライ (桃生)	本年	93	4.5	646	25.5	16.5	38.6	702	637	1,265	776
	前年比	108%	103%	122%	69%	85%	101%	102%	95%	90%	158%
	平年比	108%	100%	127%	73%	97%	101%	101%	117%	101%	157%
ミノリムギ (桃生)	本年	91	4.7	432	27.5	11.9	36.3	678	431	1,242	567
	前年比	100%	93%	105%	70%	73%	98%	104%	82%	106%	126%
	平年比	101%	98%	114%	65%	76%	102%	102%	93%	109%	120%
ミノリムギ (真野)	本年	65	4.5	287	22.1	6.3	36.7	650	232	566	245
	前年比	77%	87%	104%	63%	66%	96%	101%	63%	65%	66%
	平年比	73%	97%	82%	71%	61%	102%	99%	62%	56%	52%
ホワイト ファイバー (水沼)	本年	96	4.1	480	22.5	10.8	39.1	706	422	1,620	782
	前年比	121%	98%	157%	72%	113%	101%	107%	114%	195%	226%
	R1年比	111%	85%	111%	69%	76%	113%	102%	86%	129%	129%
シラネ コムギ (小船越)	本年	74	8.0	611	20.9	12.8	38.6	823	493	1,250	496
	前年比	100%	97%	121%	63%	76%	91%	102%	71%	83%	90%
	平年比	95%	108%	104%	81%	85%	98%	101%	88%	93%	86%
シラネ コムギ (桃生)	本年	87	7.6	625	16.2	10.1	41.7	823	422	1,551	889
	前年比	108%	92%	118%	57%	67%	103%	102%	68%	107%	152%
	平年比	104%	95%	113%	61%	69%	101%	101%	75%	127%	181%

※ 子実粒数：大麦2.3mm、小麦2.4mm以上の子実重を千粒重で割った値

※ 平年比：H28～R2の5か年平均(平年値)との比

※ 水沼(ホワイトファイバー)は調査3年目のため平年値なし



※赤の棒グラフはR3の等級別比率  
青のマーカ-はR3の収量

図7 石巻管内の検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき農産物検査課提供資料より)

次年度に向けた対策(ポイント)

- **適期播種**: 適期 10月5日～20日
- **播種深度の確認**: 目標は深さは3cm
- **湿害対策の徹底**: 明渠, 暗渠
- **麦踏みの実施**: 年内1回, 年明け1～2回
- **適期追肥**: 幼穂形成期, 減数分裂期, 穂揃期(小麦のみ)

.....参考.....

表3 麦類に登録がある土壌処理剤

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)
シナジオ乳剤	一年生雑草 (ツクサ科, カヤツリグサ科, キク科を除く)	播種後出芽前 (雑草発生前)	300～400ml/10a (100L)
ガレーズ乳剤	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	200～250ml/10a (100L)
ボクサー	一年生雑草	大麦: 播種後～麦2葉期まで 小麦: 播種後～麦4葉期まで (雑草発生前～雑草発生始期)	400～500ml/10a (70～100L)

表4 麦類に登録がある茎葉処理剤

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)
アクチノール乳剤	一年生広葉雑草	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200ml/10a (70～100L)
ハーモニー75DF 水和剤	スズメノテッポウ	播種後～節間伸長前	5～10g/10a (100L)
	一年生広葉雑草	大麦 播種後～節間伸長前 小麦 播種後～穂ばらみ期, 但し収穫45日前まで	5～10g/10a (100L)
バサグラン 液剤(ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期(雑草の3～6葉期) (但し大麦収穫90日前まで, 小麦収穫45日前まで)	100～200ml/10a (70～100L)
MCP ソーダ塩	一年生 及び 多年生広葉雑草	(秋播麦類) 幼穂形成期(但し収穫45日前まで)	200～300g/10a (70～100L)

麦類も他作物と同様に**基本技術の励行**が大切です！  
基本を確認し適期作業に努めましょう。



令和3年9月8日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。使用回数は薬剤の使用回数を示しています。農薬使用の際には薬剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。農薬使用に先立ち、ラベルの表示事項を必ず読み、安全使用上の対策等について確認してください。